



コロナ禍で学んだ大きな違い 英国流儀 vs 日本流儀



コロナ禍は、各国の文化、社会、経済的背景等の違いから、それぞれの国の特徴を浮き彫りにしました。今回のセミナーでは、「国民性（特に若手メンタリティ）」「観光」「アルコール飲料業界」という多彩なトピックにおいて感じる”日本と英国の違い”について、3人の講師の方々から、現地情報を踏まえてお話いただきます。ぜひご参加ください！

- 日時 : 2022年**1月21日(金)** **19:00**～20:30頃 (日本時間)
- 形式 : オンライン (Zoomウェビナー) ※見逃し配信対応
- 参加登録 : 下記登録フォームよりお申込ください

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_E5xCF-lUR_0GYi5xgYKvrg

プログラム

プロフィール

前・在英国日本国大使館一等書記官 (現・財務省主計局課長補佐)

片岡 修平 氏

「攻める英国、守る日本」

～日英のウィズコロナ時代の若手メンタリティの違い～

- ルール(コロナ行動規制)をどう上手く破って楽しむかという英国消費者の屈強なメンタリティ (罰金刑でも止まないホームパーティー、意外な警察の探索手法ほか)
- 手を洗わない、野菜も洗わない、サービス業の多い産業構造と移民労働力の多さ (それを支える無料の医療と公教育)という日本と比較した英国消費者の文化的特長
- 今を生きるという若手メンタリティ (明日のワクチン効果より、今の副作用で5日働けないのが嫌)など、コロナ禍を経ても、不変で強い英国消費者メンタリティをご紹介します。



大使館勤務時、ロンドンにおける財政経済調査の傍ら、地方自治体等と共に年間50件近くの、日本酒・日本ワインを用いたPR支援企画を運営。英国政府との関係強化、英系事業者・消費者の需要創出に取り組む。

日本政府観光局 (JNTO) ロンドン事務所 所長

地主 純 氏

「日本と英国での旅行市場の違い」

英国は2021年3月からロックダウンを段階的に緩和し、7月19日からは渡航自粛の対象国・地域も大幅に縮小しました。高いワクチン接種率を背景に、その後も規制緩和を進め、オミクロン株の発生前にはほぼ入国規制がないというよい状態になっていました。

一方、日本では引き続き強い入国規制が維持されていますが、当初遅れが指摘されていたワクチン接種も目覚ましい勢いで進捗し、いまでは英国を上回りG7で最も高い接種率となっています。

大きくことなる両国の対応には様々な要因がありますが、このコロナ禍での対応からそれぞれの旅行市場の特徴について考えてみたいと思います。



観光庁でG20観光大臣会合のホスト国としての開催やコロナ禍での観光産業支援に携わった後、2021年6月より、日本政府観光局ロンドン事務所に着任。訪日旅行の促進に取り組む。

酒サムライ英国代表 日本酒造組合中央会UKデスク

吉武 理恵 氏

「コロナで見たアルコール飲料の(相対的)重要性」

コロナで売れ行きが止まらなかった英国のアルコール業界、一方、コロナ対策の煽りで販売激減の日本のアルコール業界。

この違いの要因は一体どこにあるのでしょうか？

コロナ禍が始まってから約2年を経て、日本と英国のアルコール飲料業界の推移と現状を、文化、社会、経済的背景も含めて説明します。

日本からは、日本酒造組合中央会副会長、浦霞酒造の佐浦弘一氏から、苦しみ国内日本酒業界の現状もレポートしていただきます。



在英35年。日英の文化、ビヅ・ビジネスコミュニケーションのスペシャリストYoshitake & Associatesのチーフコンサルタント。25年に渡る高級ワイン・ビヅ・ビジネス経験を基盤に、インターナショナルワインチャレンジ (IWC) 日本酒部門の設立運営に携わる。外務大臣賞、農林水産大臣賞受賞。